

日越大学メールマガジン



熊谷国際教養大学副学長による講義

「Forest and Wellbeing」をテーマに国際教養大学副学長が日越大学で講演

2024年10月29日、国際教養大学(AIU: Akita International University)の熊谷嘉隆副学長をお迎えし、「Forest and Wellbeing」をテーマにした講演会が開催されました。熊谷教授は、日本の森林がもたらす生態系サービスの経済価値を約70兆円(約11.6兆ベトナムドン)と推定し、空間、木材、町、技術、人といった要素を結びつけた持続可能な社会の構築に向けたビジョンを紹介しました。

講演では、AIUの教育理念や役割にも触れられ、地域密着型のリベラルアーツ教育を通じて、地域社会と国際社会に貢献するAIUの取り組みが紹介されました。またAIUの特徴として全ての授業を英語で提供し、1年間の留学を義務付けることが紹介されました。秋田県立大学や秋田公立美術大学との連携プロジェクト、COI-NEXT『森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点』にも取り組み、秋田県の森林資源を活かした産学連携の促進と価値創造に加え、持続可能な社会の実現に向けた具体的なテーマとして、「森林と木材」「森林と街」「森林と技術」「森林と人」を活用し、地域の健康促進や起業家精神の育成、環境に配慮した建材の開発などが紹介されました。これらの取り組みを通じて、地域資源を活用した新しい大学の役割が示されました。この講演会は、地域と環境に根ざした大学教育の未来像を参加者に提示し、持続可能な社会に向けた重要な示唆を提供する場となりました。

今月号の内容

- 「Forest and Wellbeing」をテーマに国際教養大学副学長が日越大学で講演
- 吉野家ホールディングス × 桜美林大学、さくらサイエンス「持続可能なサプライチェーンモデルとスマート農業技術修得プログラム」を実施
- SOI Asia (School on Internet Asia) プロジェクトと教育連携を開始
- 学部シビルエンジニアリングプログラム(ECE)及び修士課程土木工学プログラム(MCE)の学生が日本のODAで建設した排水処理場を見学
- 日越大学での就職支援の取り組み
- 日越大学での職員の国際化に向けた取り組み
- 日越大学での地方自治体や日本企業との交流事業
- ハノイ日本人学校の小学6年生が日越大学を訪問
- NSキャピタルとMOU締結
- ベトナム教師の日をお祝い

► 吉野家ホールディングス × 桜美林大学 さくらサイエンス「持続可能なサプライチェーンモデルとスマート農業技術修得プログラム」を実施

2024年10月4日～10月13日、学部日本学プログラム（BJS）、食品工学と健康プログラム（EFTH）、スマート農業とサステイナビリティプログラム（ESAS）の学生たちが、吉野家ホールディングスと桜美林大学の共催で行われた「持続可能なサプライチェーンモデルとスマート農業技術修得プログラム」に参加しました。本プログラムは、科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプログラムの助成を受け、次世代の農業と食品産業に貢献する人材育成を目指しています。プログラム期間中、学生たちは桜美林大学での学術交流に加え、吉野家の福島ファーム、Yakultの発酵乳酸飲料およびマヨネーズ工場などの施設を訪問し、現地視察を行いました。視察では、最新のスマート農業技術やサプライチェーン管理に実際に触れる機会を得るとともに、持続可能な食品生産の現場で実際に行われている厳格な品質管理のプロセスを学びました。



福島ファームでの研修

► SOI Asia (School on Internet Asia)* プロジェクトと教育連携を開始

日越大学は2024年10月より、SOI Asia (School on Internet Asia) プロジェクトが提供するインターネット人材育成プログラム「APIE (Asia Pacific Internet Engineer)」を学部3年生の必修科目「コンピュータネットワークと通信」に導入しました。この科目では、APIE プログラムのオンラインコース「Understanding the Internet」と「Operating the Internet」を教材として使用し、学生は自分のペースでインターネットの基礎から運用スキルまでを学べます。修了後には、日越大学の単位に加え、SOI Asia から発行されるデジタルバッジも取得でき、LinkedInなどのSNSでスキルの証明として活用することができます。日越大学は、このプログラムを通じてベトナム国内外で活躍できる人材の育成と、学生のキャリアパスの拡大を支援しています。



授業の様子

*SOI Asiaは、2001年に慶應義塾大学を中心として開始された大学間教育研究協力のプラットフォームであり、2024年現在では29の大学や研究機関が参加しています。APIEプログラムは、アジアの大学間の協力を通じて次世代のインターネット技術者の育成を目指しており、オンライン学習に加え、隔週で開催されるe-Workshopや、アジア各地で実施される合宿形式の「APIE Camp」も提供されています。これらの活動に参加することで、他国の学生や現役エンジニアとの交流が深まり、国際的な人的ネットワークの構築に貢献します。

► 学部シビルエンジニアリングプログラム（ECE）及び修士課程社会基盤プログラム（MCE）の学生が日本のODAで建設した排水処理場を見学

2024年10月18日、学部シビルエンジニアリングプログラム（ECE）および修士課程社会基盤プログラム（MCE）の学生たちは、ハノイ市にあるYen Xa排水処理場を訪れ、日本のODA（政府開発援助）によって建設された施設の運営を学びました。見学を通じて、学生たちは排水システムの仕組みやその重要性について理解を深め、大規模インフラの建設と運営の実務に触れる貴重な経験を得ました。この学びを今後の研究に活かすことが期待されます。



施設見学の様子

▶ 日越大学での就職支援の取り組み

■ Sekisho Vietnamによる就職活動支援セミナーを開催
2024年10月15日と16日に、Sekisho Vietnamによる就職活動支援セミナーが実施されました。セミナーでは、Sekisho Vietnamの大関貴弘様より、企業側の視点から履歴書の効果的な書き方や面接準備において注意すべき事項といった就職活動における重要なポイントを学生たちに説明いただきました。また、就職活動における時間管理や服装、態度など、企業に好印象を与えるためのマナーについても詳しく解説され、参加者からは大きな関心が寄せられました。さらに、実際の面接で役立つアドバイスや具体的な事例を交えた講義が行われ、学生たちは実践的な知識を深めることができました。セミナーは学生たちにとって、就職活動に向けた大きな一歩となる有意義な機会となりました。



Sekisho Vietnamによる説明

■ 日本での職場環境で働くためのスキルを学ぶ特別授業を実施

2024年11月6日、全学部プログラム2年生、3年生を対象にした「日本の職場環境で働くためのスキル」の特別授業を実施しました。この授業は、日本の企業文化や職場マナーについての基本的な知識を提供し、学生が自ら必要なスキルを習得できるように設計されています。学生達は、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の重要性、名刺交換、履歴書の作成や応募書類の送付方法、面接時の服装マナーなど、日本で働く上で欠かせない実践的な内容を学びました。参加した学生達は、授業では、入室・退室時の作法や面接準備の注意点についても指導され、日本式のビジネスマナーを身に付ける絶好の機会を得ました。



面接の練習

▶ 日越大学での職員の国際化に向けた取り組み

■ 立命館大学職員が日越大学を訪問

2024年11月8日、立命館大学の職員5名が日越大学を訪れました。この訪問は、立命館大学が職員の国際化を目指したグローバル研修の一環として実施しており、この研修を通じて、両大学間の国際協力を推進することも期待されています。日越大学での研修は、今回が2回目となりました。今回の研修には、立命館大学から法学部、グローバル教養学部、経済学部、文学部、APU Student Officeの職員が参加し、立命館大学ASEAN事務所の若山周平所長が同行しました。研修は、日越大学プロジェクトの概要説明から始まり、立命館大学職員が自身の業務内容を紹介し、質疑応答が行われました。昼食では、日越大学が11月に日本の大学に派遣する職員と交流し、親睦を深めました。その後、日越大学の教室棟、食堂、クラブハウス等の施設を視察し、日越大学職員の案内で執務室も見学しました。参加した立命館大学の職員からは、『日常業務では得難い視点を得ることができる貴重な機会となった』といった声が寄せられ、この取り組みが両大学の新たな発展を促す可能性があることが確認できました。日越大学は、今後も日本の大学と大学職員の交流を積極的に推進していきます。



立命館職員の日越大学の執務室見学の様子



▶ 日越大学の地方自治体や日本企業との交流事業

日越大学では、日越交流の拠点として多くの自治体関係者や日本企業の視察を受け入れています。日本の自治体や企業と日越大学の連携を深めることにより、日越関係のさらなる発展に寄与する貴重な機会となっています。自治体や企業との交流活動の一部をご紹介致します。

■ 株式会社日本旅行による日越大学訪問、学部学生の研究発表会に参加

2024年10月15日、株式会社日本旅行の社員が日越大学ミーディンキャンパスを訪問し、学部課程日本学プログラム（BJS）の3年生と4年生による研究発表に参加しました。学生の発表したテーマは、家族内での呼称の比較や電動バイクの利用決定要因、職場における障害者支援政策、ベトナムと日本のオフィスワーカーの思考の違いなど多岐にわたり、参加者からは学生の発表が実用的で現実的な内容として高く評価されました。

■ 栃木県商工会議所による日越大学訪問、日本語の授業等を見学

2024年10月21日、栃木県商工会議所の視察団が日越大学ホアラックキャンパスを訪問しました。視察団は日本語の授業の様子を見学し、日越大学での日本語教育や学生の学習活動に深い関心を寄せました。この訪問は、日越間の教育やビジネス交流をさらに強化することを目的としており、参加者たちは両国の協力関係の重要性を再確認する貴重な機会となりました。

■ 北九州市の来学、IT分野における連携の可能性について意見交換

2024年11月1日、北九州市役所の職員とベトナムの協力企業である株式会社NIX EDUCATION（NIX EDUCATION., JSC）のスタッフが日越大学に来学しました。北九州市は「ベトナム高度IT人財インフラ開発事業」に取り組んでおり、IT分野における連携の可能性について意見交換を行いました。

■ 北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）による日越大学訪問

2024年11月12日、北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）の主催する、北海道青年海外派遣事業の参加者が日越大学ホアラックキャンパスを訪問し、学部プログラム1年生との交流を行いました。参加者による、北海道の自然や文化、観光地を紹介するセッションもあり学生達にとって北海道の魅力を知る貴重な機会となりました。



株式会社日本旅行社員と学生



栃木県商工会議所による日本語授業の見学



北九州市との意見交換の様子



HIECC 参加者による北海道についての説明

▶ ハノイ日本人学校の小学 6 年生が日越大学を訪問

2024 年 11 月 11 日、ハノイ日本人学校の小学 6 年生約 60 名が、日越大学ミーディンキャンパスを訪れました。日本人学校のキャリア教育の一環として行われたこの訪問では、日越大学の教職員や JICA 専門家との交流会に加え、日本語授業の見学が行われました。交流会では、日越大学の教職員と JICA 専門家が各自の仕事やキャリアについて語り、日本語授業では児童と日越大学の学生が日本語で会話しながら交流を深めました。



交流会の様子

▶ NS キャピタル株式会社と協力覚書締結

2024 年 10 月 21 日、日越大学は NS キャピタル株式会社と協力覚書をオンライン形式で締結しました。同社にはこれまで、奨学金の提供や就職説明会を通じてご支援をいただいており、学生のキャリア形成に大きく貢献しています。今回の協力覚書締結を機に、より深い連携を図り、教育や研究分野での新たな協力機会の創出を目指します。



オンラインでの覚書締結式

▶ 「ベトナム教師の日」をお祝い

2024 年 11 月 19 日、日越大学で「ベトナム教師の日」を祝うイベントが開催されました。この特別な日を記念して、学生たちによる歌やダンスのパフォーマンスが披露され、会場は活気と温かい雰囲気に包まれました。ベトナムでは、11 月 20 日が「教師の日」として広く知られ、感謝の気持ちを込めて先生方に贈り物を渡すなどの文化が根付いています。日越大学でも、学生が主体となり、教員や職員への感謝の気持ちを表現する場が設けられました。教員や職員だけでなく、学生同士の絆も深まり、日越大学らしいコミュニティの魅力が改めて感じられる機会となりました。



イベントの様子

■日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

(ベトナム語) <https://www.facebook.com/vnu.vju/>

(日本語) <https://www.facebook.com/VJUjp/>

JICA プロジェクトページ (ODA 見える化サイト)

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■お問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト メルマガ編集部 (担当:川口)
【メール配信停止・変更】

配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、上記問い合わせ先までメールにてご連絡ください。